

天文班新聞

編集者

天文班

2 学年

1 学年

文化祭活動報告

今年度、天文班は文化祭でプラネタリウム、ポスター・模型展示を行った。特に、例年大好評のプラネタリウムは、昨年は自作のドームを使ってプラネタリウムを上映していたが、今年度は準備期間の関係などで倉庫に眠っていた大型のビニール製のドームを使って行った。しかし、新たな試みとして、班員による解説を行った。秋の四辺形やフォーマルハウトなど、その時期に見られる星々に興味を持ってもらえるよう、星座をドームに投影し、解説した。語り手と投影係の連携がとても大切な部分、練習に練習を重ねて班員一同協力して頑張った。

文化祭が忙しくて観にいなかったという人や星に興味がある人向けに12月にもまたプラネタリウムの上映を予定している。せっかくの機会なので、ぜひご覧いただきたい。



ドーム内部の様子（班員撮影）

11月の空

5日（水） 満月 / おうし座南流星群が極大

10日（月） 水星が留

12日（水） 下弦 / 木星が留 / おうし座北流星群が極大

18日（火） しし座流星群が極大

20日（木） 新月 / 水星が内合

28日（金） 上弦

29日（土） 土星が留

30日（日） 水星が留

文化祭ドームにも登場した！？

アンドロメダ座、カシオペア座、

ペルセウス座、くじら座などを

見ることができる！

天王星が衝

11月21日、プレアデス星団の南で

衝になる。（衝とは惑星が地球から見て

太陽の反対側に位置すること）

月と土星

11月2日、5日に満月となる月が土星に

約2.4度の離角（満月の見かけの直径の

約5倍）まで近づく。土星は0.8等星の

明るさで輝くため、見つけやすい。

土星の輪が消える

11月25日前後、環の傾きが 0.37° と

なり、好条件でほぼ輪が見えない土星を

見ることができる。

深宇宙への旅

2025年9月22日、天文班はお台場の日本科学未来館で開催されている新宇宙展へと足を運んだ。新宇宙展では、「人類はどこへ向かうのか」というテーマで最新の宇宙探索技術が多く展示されていた。例えば、ロケットや、人工衛星などの模型、中には実機の一部もあり、それらにくつかには触れることが出来た。とても大きい機体もあり、これが飛ぶのかと思うと感慨深いものがあつた。それぞれにその機体がどんな役割をするのかなど細かに説明がなされていて、とても興味深かった。実際に採取された天体の粒子や土も展示されていて、それらを顕微鏡で観察することもできた。

また、宇宙の研究の歴史を知ること出来た。ビックバンから現在に至るまで、それから未来へ。歴史をみるとこれまでどれほどの人が関わり、熱量を持っているのかがよく分かった。だが特に未来への展望が個人的に凄いと思った。もうあと数十年すれば宇宙開発も進み、地球以外の星でも人間は暮らせるようなそんな気がした。未来には宇宙関係の仕事も増え、私たちの選択は広がるだろう。新宇宙展はとても面白く、私自身の宇宙観が変わった。宇宙の深淵を少し知れたような気がして、宇宙に行ってみたくなった。

班員が撮影したもの

月（クレーターが見える）



土星（環が見える）



観測活動再開！

10月は22日と29日に観測を行う予定だったが、天候により23日と30日に日程を変更した。また、借用しているスマート望遠鏡を今回から導入した。

23日には、空の殆どが雲で覆われ、久しぶりの天体観測ではあつたが、上手くいかなかった。しかし、辛うじて夏の三角が少し見えた。

30日は天気も快晴で様々な星を観測することができた。月が一番よく見えた訳だが、ちょうど上弦であつた。29日同様、夏の三角も見ることができた。夏の三角とは、こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちよう座のデネブという三つの星を繋いでできる三角形のことだ。「夏の」と言いつつ11月頃まで見ることができ、目立つため、他の星を探す手掛かりにもなる。また、土星も観測することができ、土星の環まで観測することができた。しかし、レンズの倍率を上げてもっとよく見ようとしたところでマキシヨンの陰に隠れてしまった。他にも、北アメリカ流星雲など、様々なものを観測することができた。

今回は日程が一年生の図書館研修などと重なっていたこと、直前の日程変更があつたことなどにより、参加率は（特に30日が）低めであつたが、無事に観測を行うことができた。次回は更に気温が下がると思うので、より体調に気を付け、防寒をして行いたい。